

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 (14)	方言を交えながらのコミュニケーションをしているが、「しなっせ」「せなんたい」などの命令口調が無意識の中から発してしまう場面がある。介護者としての立場と、利用者が人生の先輩であるとの敬意が反転しています。認知症の重度化による言動について介護者が対応できずストレスを感じてしまい、つい、命令型の口調になってしまう。	親しい後輩として、方言を使ったコミュニケーションを大切にしながらみ利用者が日々楽しく生活が送れるケアを目指したい。	県内の方言でも、優しい表現と、ぶっきらぼうな表現が地方によっては存在し、介護者自身も気づかないことがある。運営者を含めて、持続的な勉強会を実施し、会話力を深めていきたい。	随時
2	4 (3)	運営推進会議はコロナの影響で、年6回開催予定を全て資料送付で対応することとなった。コロナ収束は見えない状況である。	コロナ収束までの間、現在実施している資料提供で家族等へは、ホーム運営内容を周知していく。	郵送するタイミング(請求書・領収書)に同封する形で継続していく。(収束後は、家族等参加に向けて周知を行う。	奇数月
3	27	介護記録の方法は、記入した職員名を併記することで、利用者との関わり及び記録者責任を明確にした。かなり改善されたが、記録付けに個人差が生じている。(詳細を記録できる者、口頭だけで、記録に残せない者。)全員がこまめな記録を付けることは困難だが、誰が見ても記録内容が把握できるよう、今後も記録付けに努力したい。	個別の介護記録は、利用者の生活行動・排せつパターン・服薬・バイタルなど利用者個々の心身状態が把握できることから医療機関受診の際にも十分活用できるものとなっているため、記録手法の統一性を行っていない。	申し送り等で更に記録の重要性を伝えたい。なお、利用者の異変・変調等は、家族や医療機関へその都度、記録票そのものを提示しているが、特に「摂食」「バイタル」「排せつ」「言動内容」は、役立っており、家族の安心感にもなっている。	随時
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。